

# 令和5年度 学校経営方針

## 〈学校運営体制〉

- **グラウンドデザイン・・・カリキュラムマネジメント**
- 学校と家庭、地域が連携を図る  
→ 学校運営協議会（コミュニティースクール）
- 教職員の健康の保持と、快適な環境形成を図る。  
→ 働き方改革と業務改善

# 〈学習指導について〉

- 国語科における校内研究の充実

テーマ：「自ら考え、判断し、行動する主体的に学び児童の育成～学ぶ側に立った授業の実践を求めて～」

1学期 神戸常盤大学：山下敦子 教授

2. 3学期 桃山学院教育大学：二瓶弘行 教授

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立
- 読書活動の推進（絵本の読み聞かせ、平行読書の奨励など）
- 「探究的な学び」と「情報活用能力の育成」

## 〈道徳教育〉

- 「道徳科」ローテーション道徳の実施で教員の指導力UP。
- 校内研修の実施  
大阪大谷大学 教授 岩井晃子氏

## 〈生活、総合〉

- SDG s の視点を取り入れた教育活動 → 大阪万博に向けて
  - ①校内研修の実施： 大阪樟蔭女子大学 教授 田辺信久氏
  - ②カードゲームと学習発表会（プレゼン大会）を予定（5年）
- 小学校段階からキャリア教育の充実を図る
  - ①キャリアレッスン（6年）6月12日

## 〈人権教育〉

- **多様な価値観を尊重して共に生きる力を育む。** また、児童の自尊感情の向上を図り、**人間関係作りの力を育む。**
- 日常的に**人権感覚の醸成に資する取組**を
- 児童虐待の防止（心の相談員、SSW、関係機関との連携）
- **児童についての理解を深め**、個の状況に応じ、教職員が協力して児童が相談しやすい環境を整えるとともに、心情に配慮した上で、児童が正しく理解できる教育に努める。

## 〈支援教育〉

- インクルーシブ教育システムの理念を踏まえた取組  
※合理的配慮はあたりまえ（法的根拠あり）
- **ユニバーサルデザイン**による授業づくり
- 支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会の適切な運営
- **支援学級の担任、通級指導教室担当、担任の連携**

# 〈英語教育とグローバルな視点の育成〉

- ・ 関西外国語大学のインターンシップの活用 5月末～6月中旬
- ・ オーストラリアとの交流会（予定）

# 〈体力向上・健康・食育〉

- ・ 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」等の結果を分析・活用した、体力向上推進計画を作成～日々の体育の授業を充実～

→ 運動の可視化アプリの検証 （2学期）

（東北大学の教授の指導あり）

- ・ 保護者・学校医・学校歯科医・学校薬剤師・主治医・地域の保健医療機関と十分な連携
- ・ 食物アレルギーへの注意

※食物アレルギー疾患を有する児童について「アレルギー疾患対応の学校生活管理指導表」を活用すること。特に、アナフィラキシーショック等については、万一の場合、適切に対応できるようエピペンの取扱い手順等の研修を行うとともに、消防・救急機関との連携も踏まえた体制を整える。

- ・ 熱中症予防 については、こまめに水分や塩分を補給し、休息を取る等の対策をとる。

# 〈児童指導について〉

## ★児童理解に基づき指導にあたる

- 全教職員が児童との信頼関係を築き、児童理解に基づき指導にあたる。
- 児童及びその保護者からいじめについて相談があった場合は、真摯に向き合い児童・生徒及びその保護者に寄り添い、傾聴する。
- いじめ・暴力行為等の問題行動が発生したときは、学校が一体となって、組織的な対応を行う。
- 不登校または不登校の兆しのある児童に対し、機を逃さず家庭訪問をするなど、きめ細やかで適切な対応を図る

## ★ぼーちの活用

- ①子どもの気持ちの変化の把握
- ②子ども自身にメタ認知力をつける

## 〈安全教育・防災教育〉

- 安全点検・・・日常から施設の危険個所がないかを確認
- 安全指導・・・子どもをエンパワメントする→事故未然防止
- 防災教育の充実 → 南海トラフを懸念

## 〈特別活動・行事等〉

- 行事や、クラブ委員会活動、異学年交流を通して、子どもにつける力
  - ①達成感
  - ②人間関係づくり
  - ③集団行動
  - ④自尊感情
  - ⑤自己有用感
  - ⑥思いやりと感謝の心

## 〈働き方改革〉

- 笑顔の学校プロジェクトにて交流
- ストレスチェック活用⇒心理的ストレスの軽減
- アシスタントの活用 ⇒ 心理的ストレス軽減
- 時間外勤務の削減 ⇒ 身体的負担の軽減

## 〈タブレットの活用〉

- 授業における活用
- 子どもの情報活用能力の育成 ⇒ 課題解決型学習へ